

## 大阪からもう一つの都市再生を問う動き 「上町台地からまちを考える会」が発会

弘本由香里

### 「上町台地からまちを考える会」誕生の発端

2003年5月31日、天王寺区生玉町の生国魂神社・参集殿を会場に、地元関係者・NPO・学識者等々約140名が集まり「上町台地からまちを考える会」発会式が開催された。

「上町台地からまちを考える会」は、天王寺区筆ヶ崎にある大阪赤十字病院建て替え等に伴う余剰地において、都心ならではの豊かな地域資源を活かした住宅市街地整備のあり方を検討した研究会(都市基盤整備公団主催)に端を発している。1999年度から積み重ねてきた同研究会のなかで提起されたのが、同地域ならではのライフスタイルを実現するための、「上本町コミュニティ・ネットワーク(CN)構想」。この構想での議論を契機に、同研究会メンバーと同地域周辺でまちづくりに関わる地域住民等を中心とした、「(仮称)上町台地のまちづくりを考える会」が2002年から活動を開始。2003年5月に名称を「上町台地からまちを考える会」として、正式に発足することになったものである。



発会式(理事・事務局メンバー紹介)



発会式(フロア風景)



発会式(セッション風景)

### 「上町台地からまちを考える会」理事の顔ぶれ

秋田光彦(代表理事)： 應典院 主幹、應典院寺町倶楽部 事務局長、大蓮寺 住職

渥美公秀： 大阪大学大学院ボランティア人間科学講座 助教授

小田切聡： 西代官山クラブ 代表

宋悟(ツオ)： 在日韓国民主人権協議会 共同代表

高田光雄： 京都大学大学院工学研究科 教授

弘本由香里： 大阪ガスエネルギー・文化研究所 客員研究員

富士原純一：（有）富士原文信堂 代表取締役

六波羅雅一： 空堀界限長屋再生プロジェクト 代表、六波羅真建築研究室 代表

### 「上町台地からまちを考える会」が目指すもの

大阪の都心の一角に位置する上町台地一帯は、高度な都市生活機能、医療・教育・文化施設などが集積し、落ち着いた住環境が存在することから、都心居住にふさわしいエリアとして注目を集めている。また、近年「都心再生」の掛け声とともに、上町台地にも都心回帰の波が起こっている。

しかし、都心での暮らしの喜びや安心は、決して大規模な再開発や便利な施設の集積だけでかなえられるものではないだろう。「上町台地からまちを考える会」は、上町台地からほんとうの都心居住のあり方・都市再生のあり方を問い直し、実現していくために、次のような目的を掲げ活動を展開していくものである。

### 上町台地に暮らすほんとうの価値の発見

大阪の代表的な都心居住エリアである「上町台地」の真価とは何か。上町台地ならではの豊富な資源、歴史、文化、国際交流、福祉・医療、教育、宗教・・・、そして魅力的な人々の活動。そこにつながる暮らしの実感を。上町台地ならではの地域資源を介して、さまざまな価値との出会い、そして新たな価値の創造を目指す。

### 地域ネットワークの創造・つながりのデザイン

上町台地一体には、市民が出会い表現し、つながることのできる舞台がたくさん点在している。場所や人、地域の資源がつながり、活性化すれば、まちに賑わいが戻る。多くの人々が上町台地一帯を訪れ、固有の文化を再発見する契機にもなる。そこに、内発的・持続的な新しい「産業価値」や「コミュニティ・ビジネス」を生み出す可能性も見出していく。

### 「資源」「市民」「コミュニティ」の力を活かす

今日、上町台地一帯では、地域資源を活かした、市民によるさまざまな活動が活発に展開されつつある。地域住民を始め、NPO、行政、大学や企業などがセクターを超えて協働し、「資源」「市民」「コミュニティ」の力を活かし、上町台地ならではの暮らしの価値を掘り起こし提案していく。

## 「上町台地からまちを考える会」の活動紹介

上町台地一帯の地域資源を活かした、市民による魅力的な活動が、ネットワークの核になり、「資源」「市民」「コミュニティ」、三つの力をエンパワーしていく。

### 拠点地域に根ざした活動資源

應典院寺町倶楽部・

なにわ人形芝居フェスティバル

上町台地にある寺町の一つ、下寺町の大蓮寺に1997年に建立された塔頭「應典院」。寺院が本来果たしていた「学び」、「癒し」、「楽しみ」という3つの役割を現代に再現するため、ホールとしての機能を持つ本堂を有する「應典院」と、アートを中心とした活動により心の地域創造をめざすNPO「應典院寺町倶楽部」が融合し、ハードとソフト両面から地域に文化を発信している。

また、下寺町一帯では、各寺院他による実行委員会主催で、春の一日いっせいに寺院が門戸を開き、境内を会場に人形芝居フェスティバルも開催されている。



應典院内アート展



なにわ人形芝居フェスティバル

在日韓国民主人権協議会(民権協)・

コリアタウン体験学習

民主主義と人権という価値観を基礎にして、在日コリアンとしてのアイデンティティを育み、誇りを持って生きていくことのできる社会の実現をめざす「民権協」。自らの歴史や文化の学びを経て、在日コリアンが持つ多様な民族文化を紹介しながら、歴史や人権について理解を広げる体験プログラムを確立し、修学旅行や人権研修など全国各地から大勢の人たちをコリアタウンに受け入れている。



コリアタウン体験学習

## 空堀商店街界限長屋再生プロジェクト（からほり倶楽部）

上町台地で戦災を免れた地域の一つ、空堀。戦前からの路地が縦横に走るこの地域には、今も濃厚な地域コミュニティと人々の暮らしの記憶が詰まった長屋や屋敷が残っている。近代化、都市化のなかで忘れ去られようとしていた古い建物の持つ価値を再発見した有志たちが、長屋再生「惣」、屋敷再生「練」の取り組みや、魅力ある町角のあちこちに芸術作品をちりばめるイベント「からほりまちアート」などを通して、地域の歴史、文化、暮らしとのつながりなど、長屋や路地に蓄積された知恵、まちに暮らす意味や価値を問いかけ、気づきを促している。



お屋敷再生複合ショップ「練」



長屋再生複合ショップ「惣」

## 資源ネットワーク型の活動資源

### 上町台地活性化NPO 西代官山クラブ

生まれ育った上町台地の魅力を若い視点から見つけ出し、上町台地のすばらしさを広く発信しようとする若い世代。日々の暮らしのなかでの上町台地での楽しみ、まち歩きワークショップを通じて等身大の視点で発見した魅力、それらを丁寧に整理しながら、魅力マップ「上町台地を遊ぼう！」を制作するとともに、地域の神社の祭礼再興をアーティストたちと仕掛けるなど、上町台地に新風を巻き起こしている。

## 今後新たに展開していく活動

各拠点地域の資源やネットワークを活かし、「上町台地からまちを考える会」は、今年度から次のような事業を展開していく予定。

**上町台地・まちの学校** = 地域資源を現場で掘り起こしながら、地域住民も含む多彩な語り部と学ぶ人のつながり、上町台地上のネットワークも築いていく。

**上町台地・アートツーリズム** = 有名な観光資源だけでなく、地域文化や暮らしに関わる地域資源を丁寧に結びながら、体験型ツーリズムを試行する。

**上町台地・アートマンスリー** = 毎年秋に上町台地一帯で催される文化をベースとしたイベントをネットワークし、上町台地のイメージ形成や地域連携を図る。